

双葉町復興まちづくり長期ビジョン中間報告 パブリックコメント等の意見内容

目 次

I 「パブリックコメント」意見内容

〈提出者数：89名、意見数：179件〉

1. 長期ビジョンの評価に関するもの	1
【前向きな評価に関するもの】	1
【実現を疑問視する意見】	4
2. 帰還・復興の安全に関わる意見	6
【中間貯蔵施設・廃炉】	6
【避難指示解除・帰還の条件・判断】	8
3. 町外における生活再建の充実を求める意見	10
【町民一人一人の生活再建に向けた取組の推進】	10
【医療の充実】	10
【福祉施設の整備】	10
【税制の優遇、賠償の充実】	11
【県外避難者支援】	11
【町外復興拠点】	12
【復興公営住宅】	12
【仮設住宅からの移行支援】	13
【双葉町とのつながりの維持】	13
【記憶の継承】	13
【人材育成】	14
【放射線教育】	14
4. 期間の明示を求める意見	14
5. 町内復興拠点への意見	16
【町内復興拠点の配置や整備の考え方】	16
【進め方】	16
【インフラ等の整備】	16
【産業・雇用の創出】	17
【農業の保全、活用、再開】	18
【新たな魅力づくり(観光)】	19
【海岸堤防・海岸防災林の整備】	20
【暮らしの安全対策】	20
【除染・放射線量モニタリング】	20
【宿泊施設】	21
【共同墓地】	22
【記憶の継承】	22
【新たな生活の場の確保】	22
【生活関連サービスの確保】	22
【既存中心市街地の再生】	23
【交流施設の確保】	23
【教育環境の整備・雇用の場の確保】	23
【生活再建できない土地の活用】	23
【周辺市町村との連携】	23
【その他】	25
6. 今後の進め方に対する意見	25
7. その他	25

Ⅱ「ふたばしゃべり場」意見内容

〈意見数：23件〉

1. 長期ビジョンの評価に関するもの	28
【前向きな評価に関するもの】	28
2. 期間の明示を求める意見	28
3. 町内復興拠点への意見	28
【町内復興拠点の配置や整備の考え方】	28
【産業・雇用の創出】	29
【宿泊施設】	29
【記憶の継承】	29
【生活関連サービスの確保】	29
【交流施設の確保】	29
【復興のシンボルづくり】	29
【周辺市町村との連携】	29
4. その他	29

Ⅲ「町政懇談会」意見内容

〈意見数：33件〉

1. 長期ビジョンの評価に関するもの	30
【前向きな評価に関するもの】	30
【実現を疑問視する意見】	30
2. 帰還・復興の安全に関わる意見	30
【中間貯蔵施設・廃炉】	30
3. 町外における生活再建の充実を求める意見	30
【町民一人一人の生活再建に向けた取組の推進】	30
【税制の優遇、賠償の充実】	30
【県外避難者支援】	30
【復興公営住宅】	30
【双葉町とのつながりの維持】	29
【人材育成】	30
4. 期間の明示を求める意見	31
5. 町内復興拠点への意見	31
【記憶の継承】	31
【インフラ等の整備】	31
【産業・雇用の創出】	31
【暮らしの安全対策】	31
【除染・放射線量モニタリング】	31
【双葉町とのつながりの維持】	31
【共同墓地】	31
6. 今後の進め方に対する意見	31

I 「パブリックコメント」意見内容

＜パブリックコメントの実施概要＞

- 実施期間 : 平成26年11月17日 ~ 12月14日
 - 実施対象 : 町民全世帯 3,366世帯（分離世帯含む18才以上）
 - 提出者数 : 89名（意見数 179件）
- ※意見数は、同一書面の中で複数の同じ内容が書いてあるものを
区別して整理しています。

1.長期ビジョンの評価に関するもの

【前向きな評価に関するもの】

- 双葉町復興まちづくり長期ビジョン中間報告〈概要版〉を拝見させて頂き、イメージとして現実味を感じ久し振りに気持ちが晴ればれとして前向きになれた気がします。最終報告までどれ位の時間がかかるのかどうぞ良い審議がなされることを願っております。
- 双葉町復興推進委員会の方々の英知の下に策定されました「復興まちづくり長期ビジョン」を拝読させて頂き敬服しています。頭の下がる思いで見させて頂きました。総体的に拝見させて頂き、これ以上の良策は思い当たらない程の緻密な内容であると評価致します。
なにせ、地域の中に線量の違いが点在する中の一角に、双葉町の復興のまちづくりを進めて行かなければならないという苦しい制限があります。
そのなかでのごく限られた場所を目指さなければという辛さを感じます。皆様の苦しい思いのなかでのご協議のお姿が目には浮かびます。
特に、中間貯蔵施設を国が置くための障害が一つあります。将来が不安です。三十年内に県外としていますが果たしてそのことが守られるのかが危ぶまれます。
しかし、委員会はそのことは頭中に置いた苦渋な策図だったに違いありません。
元々、双葉町の中心は駅周辺であり、ここが幸いにして線量の低い所であるとすればここに置くのが当然であろうと思っています。少しは救われた心境であります。完成までの皆様の今後のご苦勞に深く感謝いたします。
更に、行政を司る町長さんを初め町職員の皆様には、私ども避難者に寄せるこれまでの真剣なご執務ぶりのお姿に対して感謝してきており、今後とも、お体にご自愛なされまして御活躍くださいますようお願い申し上げます、ささやかな意見となりましたが、今後ともよろしくお願ひします。
- 広範囲にわたり立派な長期ビジョンだと思います。
- 全体としては不確定要素が多い中での計画づくりであり、原案は良く出来ていると思う。
- 基本的な考え方、町内復興の整備の内容はよいと思います。
- 東日本大震災から3年9ヶ月になろうとしています。
双葉町の復興まちづくり長期ビジョンの計画には賛成です。

- 双葉町復興まちづくり長期ビジョン中間報告をお送り頂き有難うございます。双葉の復興の為、皆さんで検討され立派な計画のもと、復興に向けての理想嬉しく思いました。これから長い時間のかかる事としますのでよろしくお願ひ致します。私も双葉には色々とお世話になって居ります。何としても新山に住みたい・・・と云う気持ちは取去る事は出来ません。何時になるのか、帰れる日々を待ち続けます。
- 先日もらいました。御苦勞様で私達喜んで心嬉しく思ひ。皆さんで忙しいでしょうがつくって下さい。私はあと何年か短いこととは思うがたのしみにしています。おや方さん達ご苦勞様です、出来ただけみせてもらってさようなら。
- 一時帰宅の度に荒廢を深める町の様子をみるにつけ、帰還は難しいと諦めの気持ちでおりました。この「復興町づくり」の報告書を見ているうちに、ほんのり希望がわいてきました。帰還は出来なくても通う事は出来ると。いずれ道路や鉄道がちゃんとなって、浜野両竹地区に計画にあるようなものが出来れば、全て諦めるのではなく希望はつなげられる。中間貯蔵施設に場所をゆずるのは辛くてなりませんが、東に太平洋、西にあぶくまの山なみ、そして高い空、これらはずっとあり続けてくれる、そう思いました。関係者の皆様のご苦勞に感謝致します。双葉町は若い人や子供達にかかっています。心で応援をしております。ただ高齢者としては早く、速くと思ってしまう。
- 東日本大震災から3年9ヶ月が過ぎました。色々な所を転々と生活してきました。まだ落着かない生活が続いています。現在はいわき市に中古物件を購入して住んでおります。いわき市へ来てからは町民同士の交流は多くあります。皆さんと話したり交流している時が楽しいのですが、別れて家に戻った時の淋しさを強く感じたりします。やはり双葉町から離れて住んでいるせいでしょう。まだ決まってない事への不安なのでしょう。まだ気持ちは落着きません。どこへ住んでも気持ちの落着くことはないのです。双葉町が復興するなら私は戻りたいと思っています。若い方達は戻らないと言ってます。年寄りだけの双葉町でも良いと思います。小さな町で徒歩ですべて用事が足せる町が出来ると大賛成です。双葉町が消滅してしまうなんてことがないように祈っています。必ず近いうちに帰れると信じています。
- 他の市町村に負けないようにガンバってください。双葉町の再生、期待してます。
- 私共の御意見記入して下さいとのことですが、私の思ひ書きたいと思ひます。第一原発1号機の燃料取出し問題、地下水、中間貯蔵、其他決定していません。双葉町復興まちづくり長期ビジョンですが、種々在ると思ひます。双葉町速やかな帰還出来るプラン、暮らしの支援、医療、福祉、住まい支援、教育、原子力の災害、速やかに実施する事が大切と思ひます。宜しくお願ひします。

- 両竹・浜野地区津波被災地域復旧復興事業計画中間報告を受けて想定外の甚大な被害を受けたことをあらためて痛切に感じました。

復興計画は緻密に計画され5年間の説明を聞くことができ前向きに考え新しい双葉町の誕生に期待することが出来ました。早急な復興を心より念じます。

震災後3年8ヶ月過ぎましたが、全く復興の手だては見られないのが残念です。がれきは山のように積まれ当時のそのままの両竹に帰るたび絶望のまま帰途となります。

自然豊かな環境に恵まれた両竹・浜野地区が進歩した新しい地域に一日も早く実現すること要望致します。

一時帰宅のたびに荒れはてた故郷、我が家を見るのは心苦しく思いました。この度の復興計画を伺い、故郷が新しい形で生まれ変わる可能性があることを本当に嬉しく、胸をなでおろす思いです。

どんな形であれ故郷が残ることは嬉しいです。

これからも沢山の困難があると思いますが是非実現していただきたいと願います。そのための除染であれば賛成です。

- 私も、あと何年生きるができるか分かりません。毎日のように、「あと5年、10年ぐらいだろう」と茶飯をしながら、深く考え込んでしまいます。半認知症のような体調でいます。生きるのが辛くて死にたい時もあります。どうか、私が、健康でいる時まで、夢の復興ではなく、確実に実践し、あの双葉町が出来る事を祈りつつ、願っています。

又、この双葉町復興まちづくり計画は、今の高齢者は、存在していないかもしれません。小、中、高学生に公表して、この計画が実行できたか見とどけてほしいです。そして、子供たちも復興のため、将来は、双葉町民として労働、勤務、就労等して欲しいです。計画通り研究所が出来たら、そこで働きく事もできますね。双葉郡のためにも、私は、学生が学べ、そのまま地元で就業できる、専門学校を双葉町にもってきて欲しいです、強く願います。そして、今の子供たちが、おいて亡くなった我々双葉町住民を思い出して欲しいです。

- 後世に悔いを残さない、キチンとした事業をしてほしい。

しかし、出来るところから早急に着手してほしい。

まず歩き出すことです。

歩きながら考えたら良いと思う（変更が必要なときは）。しがらみの無い、いまのうちに着工を望みます。

- 帰りたくても帰れないという人がほとんどだと思います。時間がたつにつれ双葉町に帰りたいたいと思う人は増えてくるとは思いますが、子供達は今いる場所が故郷になってしまう可能性が大でしょうが私たち親は記憶が消えない限り、双葉町が古郷なのです。今は子供のためにこちらでお世話になるしかありませんが、記憶が消えない限り私たち年寄りはいつかは帰りたいたいと思っています。

復興に時間がかかるのはわかっています。私たちが今住めなくても孫たちが住みたいというならその道筋は今生きている人たちが作っておくべきだと思います。そういう私も子供達に時間をとられて町のため手伝えなくて残念です。

【実現を疑問視する意見】

- 双葉町復興推進委員会の皆様「理想とする町の将来像」作り日々ご苦勞様です。

① 帰還の時期・・・

② 理想とする双葉町の姿・・・

この二つの案につきまして率直な意見は①です。

②はあくまでも理想論であり、現状では机上の空論です。

今、汚染物の仮置き場として現実化しつつある昨今、何者として住めない「死の町」と云っても過言ではない。

将来、地図上にさえ、双葉町の町名は如何でしょう。

次代を担う若者、そしてその子供達が町への帰還をどの程度望んでいるでしょう。

帰還の長期化と云っていますが、具体的に云えば、その見通しさえ立たない未知数の昨今、特にそれを望む私達年代には「生きて再び故郷へ」は望めません。

町復興に向けて委員会の各自様のご意見等々、いずれも納得のいく事ばかりです。すばらしい明るい未来像です。しかし、長期化が不明な限り年月との戦いと思います。

- 私自身の意見を云わせて下さい。

私今70才、最近考えます。これから元気で何年生きられるでしょう。

一応結婚し子供3人（女）ばかりですが、この3.11の日がなければ自分が嫁ぎ先の家、土地、又言葉では云い表せない大切な物がたくさんあります。

私達原発さえなければ家に帰り、又以前の様に住む事が出来るのです。でも、もう来年3月で4年、家は荒れ放題、人の住める状況ではありません。

私達を住ませようと、もし国、県、町が思っているのだしたら、なぜ早急に住める手段をとらないのか日がたてばたつほど手遅れと云うより、命までも、帰れる所を帰し、帰れない所を帰さない、それで町が成り立って行くともお思いですか。年齢関係なく惨い事かもしれませんが、なぜ大熊、双葉2町村を国は買い中間貯蔵を作り最終処分にして他の県を悩ます事のない様には出来ないものか、私は思います。人はお金では解決できない事、まして口にお金の事を云ったら村八分、云えませんが、それしかないのではと私は思います。だって帰る気も住める町でもないのですもの。早急の決断を願いたい。

- すばらしい長期ビジョンです。けれど将来何人の人が双葉町にもどって来るでしょうか。とても疑問に思います。

そして本当に線量が下って、復興まちづくりができるのか？このような大計画が計画倒れにならないよう祈るばかりです。

高齢者にとっては実現を見ることは無理だと思いますが、理想とする町の将来像をぜひ夢みたいと思います。

- 私たち高齢者であり埼玉県にお世話になり余生を送るようになります。

先の見えない長期ビジョンは机上の空論でしかありません。長い間お世話になったふるさとふたばは忘れることはありません。

若い世代が復興に知恵を結集していく姿を見守っていきたいと思います。

復興に役に立てる状態ではありません。申し訳ありません。

- 詳しくは町の様子もわかりませんので、今のところでは今後の見通しも難しいのではないかと思っております。

- 基本的には、町の考えに賛同しますが疑問も残ります。
 大きな疑問は、人口の減少の問題をどうとらえているのか。
 人口の減少は、双葉町へ帰還を希望する人も含めて考えると、希望する人が半部以下、更に高齢者が多い、若い人々は避難先で生活が定着しているとなると町の人口は？少なくなり町の再興が可能なのか。
 町外（県内外も含め）で生活している人々を何年か後に戻すことは非常に難しい。この土地で生活が安定してくる。近隣との付き合いも深まり再び離れる、引っ越しすることなど不可能に近い。
 町外の各拠点（いわき、郡山等）で生活している人々と町のつながりを密にして町民としての意識を持ちあうことで町を維持する。これで双葉町として成立するのか？疑問だ。
 最悪、町の存続が危うくなったとき、町の伝統文化等をどう残していくべきか。町民の将来をどうすべきかも考慮の一つの課題だと思います。高齢者の一人として。
- 避難生活が来年で4年になりますが、何の変化も無い様です。
 今回の中間報告では何年後に帰るかは、短期、中期、長期、とありますが、現時点では現実的ではないと感じました。
 仮に10年後に「どうだ、こうだ」なら何をしようかと考えもあるのですが、自分達や子供達も現実を見ると帰って住む土地とは思えません。
 でも私は何年かかろうと帰ってみようと思っはいます。「意地です」子供には、帰って欲しくはありません。
 有識者を使って会議をやるのはかまいませんが、現場をよく見て考えてはいかがでしょうか。
 前回、役場に国より出向いている課長に「住むか？」と聞いた所、まともな返事は出来ない様でした。
 安全なら、国会議員の中でも自民党の役職の本人、子供、孫まで一緒に住んでから住民に「いっしょにどうですか？」と言ってもらいましょう。現実やつらはやらないでしょうが。もっとよく現実を見ましょう。
- むずかしい問題ですね。
 避難指示解除が何十年後になるかわからない中、なったとしてもはたしてどうでしょう。
 「双葉町を後世に残したい」「なくしたくない」のはわかります。
 これから生まれる子供達はどうかかな？
- 帰還、復興に向けた考え方
 市町村行政は住民を対象に推進を図るのが基本です。
 双葉町民は原子力災害により全国つつうらうらに避難生活を余儀なくされています。
 双葉町は原子力放射線セシウム線量が高いため、帰還困難区域に国から指定されました。
 この放射線量が減少し住民が生活し得るには一部報道によりますと20年以上ともいわれていますが国はこのことについて明確な報道はしていません。
 一時帰宅の度に廃墟されていく現状を見るにつけ国、東京電力に対し憤りを感じます。
 避難者である双葉町民が避難先の市町村に永年に渡り居住することにより地域住民との交流が増しその土地に対する愛着心もまします。
 既に永住の地として住居を建てた多くの町民もおります。
 このように生活基盤もととのい生活環境の良い土地をはなれ生活不安の双葉の地に戻ると考えておられる人は少数ではないかと想像します。
 この様な将来を推察するとき、双葉町復興まちづくりのビジョン作成について疑問をもたざるを得ません。国も将来的に行政において町の合併を進めるものと推察します。

- 何年かかっても実現すべき双葉町の姿とは、いったいどのような姿なのでしょう。あれから4年目を向かえようとしているのに、町は荒廃するばかり、容易に自宅に足を踏み入れることもままならず心が折れてしまいます。
比較的線量の低い地点を拠点に町再生を進めていく計画・ビジョン、理解できないわけではありませんが、町の現状、原発の状況も考えても先の見通しがまるでつかない現実があり、そのギャップの大きさに疑問を感じます。
中間貯蔵施設にしても報道と現状との違いに憤りさえ感じます。住みなれた土地を追われ、思いのままに生きる事さえ許されない私達をどうしようとしているのでしょうか。
施設ができなければ復興は望めないし、施設ができればできたで、これまでの穏やかな生活ができるとも思えません。将来のビジョンも大事です。でも同時に今を生きる人達が残された人生を悔いなく終えられるかも大切なことです。ほとんどの町民は町には戻れないと考えています。
しかし、心は町に残したままなのです。だから悩んでいるのです。双葉町に籍を置いたまま生活していく事に少なからず後ろめたさも感じます。方向性を示したうえで早急な対応と町としての決断が示されれば先のことが見えてきます。
克明な記録を残すこと、語り継ぐ事によって、必ず町は再生できます。平行線のままでは前には進めないと考えます。
- ふるさととは遠い、遠い県外にいるのに双葉町がひとつになるわけがない。
世代分離が進んでいるのは絆が切れ、お互いの想いがわからなくなったのが原因。
ウソ、騙され、信ずるものなし
絵に描いた餅で終わりにしよう
原発事故と人権侵害を考えてくれ
長崎、広島、福島原爆だ これからどうする
- 現在、町に戻る（戻りたいと思っている）町民はどの位なのか？世代別で。
- 帰還の目途がたたない現状での復興まちづくりの計画、御苦労様です。
町民は帰還したい方が何人とか、復興は何年後に完了するのか、数値的なものがなく、果たして生きている内に帰れるのかの検討が出来ないで居る事と思います。

2.帰還・復興の安全に関わる意見

【中間貯蔵施設・廃炉】

- 私の家は中間貯蔵施設の予定地です。町にこんな施設が作られてしまうのに、双葉町復興ビジョンなるものを策定する必要があるのでしょうか？
私は理解できません。ビジョンを話し合っているメンバーは、その辺を考慮しているのか、お聞きしたい！
机上の空論になりますよ。
中間貯蔵施設が作られない前提ならば可能であると思いますが、復興ビジョンよりも中間貯蔵施設が作られようとしている現実をどうするかです！
私は建設反対です。ビジョンのメンバーは、どうお考えなのでしょう？メンバーにインタビューしてみたいですね。
- まちづくり長期ビジョンが決まってきているようですが私は中間貯蔵施設のことが心配です。
貯蔵施設で町がなくなってしまう（住めない）のではと思っています。

- 12月13日大熊町長が中間貯蔵施設の建設を受け入れる方針を示したとの新聞報道があった。いずれ双葉町も同調して建設を受け入れる方向に向かうであろう。中間貯蔵施設が隣接する地区に復興拠点をつくらうとしているところに、そもそも無理があると思う。
大熊町、浪江町のように避難指示解除準備区域が広く、そのような迷惑施設から離れた地区に復興拠点の整備を計画するのが正当ではないか。
避難指示解除準備区域から浪江町境にかけて地域を復興拠点とし、廃炉関係の産業など工業地域をメインとすることと、それに関連した住宅、商業地を双葉駅までの地域に整備すべきかと考えます。まちなか整備や市街地住宅整備をしてどれほどの人が戻って住むだろうか。
- 30年後、福島から放射性物質を他へ移すと言っているが、皆懐疑的なのです。子供に戻って欲しいと思っていないので未来ビジョンも具体的に思いつかないのが本音です。
- 中間貯蔵施設建設の件もまだ具体的な内容が見えてこないし、30年後他に移すと言っても受け入れてくれる場所なんてないと思います。永久貯蔵施設になると思います。汚染廃棄物の仮置場の管理等、国のやる事は信用出来ない。安全安心なんて言葉にはほど遠いように現時点では感じます。
- 中間貯蔵施設を作ることにより町民が双葉町の感情的に悪く、食べ物や生活用品のお店や生活していく会社がなくなり、町全体が活気が出ず、特に若い人が戻る気にならないと思います。
また、第一原子力発電所が収束しなければ、外の町村とは違う安心・安全な気持ちになっても戻ることができないので、今のところでは復興に対してはどうしようか考えつきません。
まず、中間貯蔵施設を造らないのが復興の早道だと思います。これは中間貯蔵施設内の部落及び外の部落も反対しておりますので町も感じて下さい。
- 中間貯蔵施設早くつくって下さい。
東電廃炉して早く双葉町の復興町づくりに進んでください。
- 現在30才位の人達は、生きている間に帰還は無理の様に思う。原発の廃炉作業が未曾有な事で遅れに遅れている事から察しております。
中間貯蔵施設が出来れば、帰還は絶対出来ない部落がある事から、全町民が帰還しないと町としての復興は成り立たない気がします。無駄な事をやめて、別地にリトル双葉町づくりを考えた方が良いと考える。

● I 原子力発電所の廃炉作業について。

I-1 私共が安心して双葉にもどるために重要なことは、除染とかインフラ整備も必要であるが、なによりも安定した廃炉作業と早期にこの終結をさせることだと考えます。

26年12月2日に県北地区借り上げ住宅自治会忘年会に於ける町長の説明も、除染とかインフラ整備の話ばかりでこの問題については全然ふれられていません。

いままで国、県、東電からもいろんな説明がありましたが、今後数拾年かけて行われる廃炉作業についての問題点を私は一回も聞いたことがありません。私には関係者が意識して表面に出ないようにしていると思えます。

I-2 4号機の燃料棒引き上げのときも高線量で人間が直接作業出来ないため、ロボット作業によっていろんなものを炉中に落下させる事故が何回かありました。

また発電所構内に地下水侵入を防ぐために、氷壁とかコンクリート壁による遮蔽を試みましたが、思ったとおりの効果が上がらず、水位が殆ど下がっていないなどと報道されています。

I-3 第1原発の廃炉作業はこれから数拾年かけて施されます。この作業手続きとか設計図もこれに使用されるロボットもこれから手さぐりで作られるわけです。

先日の調査で双葉町に戻りたいかどうかのアンケートに戻りたいと答えた人が60%いたように記憶しています。

除染とかインフラ整備だけでなく廃炉作業によって発生するかもしれない事故などもクリアしての調査でなければ意味がありません。

爆弾の製造よりはるかに危険な、人類が初めて行う廃炉作業なのです。専門家でない私共でもこの長い期間には放射性物質の大量飛散が何回となくあると考えます。このほかにも必ず重大事故がかくされている筈です。

除染とかインフラ整備など問題にしている場合ではありません。

●②町内復興拠点の配置にあたり考慮すること P22

「町内復興拠点」の配置にあたって、後段に原発の廃炉作業の安全等が確保されていることを前提としているが、廃炉に向けての熔融燃料の取り出しが、現計画から5年遅れのH37年からに工程改定の予定との報道がされたが、未知の世界である廃炉作業のリスクを考えれば、安全の確保については、国、県、東京電力との確認の上、極めて慎重な対処が必要との項を入れて欲しい。

【避難指示解除・帰還の条件・判断】

●当該報告書の中に、「避難指示解除」とあるが、放射線量および汚染レベルがその頃どの位になっているか表記されていない。または、現在、町としてどのレベルになったら解除するのか？解除した場合、町民を住まわすのではなく、解除と判断した人の家族（本人も含め）を先に居住させる程のパフォーマンスを見せて欲しい。そこで10年・20年住んでみて本当に大丈夫さをアピールして欲しい。

●最後に、町に戻るか戻らないかは、町民に決めさせて欲しい。解除になったからと言って、個々の事情により全員が戻らない（戻れない）、その時はどのような対応をするのか？

- 「双葉町復興まちづくり長期ビジョン中間報告《概要版》」を拝見いたしました。
概要版のため諸項目への具体的な対応方法が読み取れず、詳細に作成されているか否かも不明ですが、感想を含めて意見を申し上げさせていただきます。
町民や新たに町民になろうとする者が町へ帰還すると決断する最重要な項目は二点あると考えます。一点はまず本当に放射能等原子力災害による健康被害が皆無なのか。もう一点は豊かな生活を維持するための生活基盤の確保です。
原子力発電所の廃炉作業や中間貯蔵施設が環境に与える影響について、専門的知識を持たない我々は極めて懐疑的に受け止めざるを得ません。本当に環境や健康に全く被害を及ぼさないとの証明をいかに行っていくかを明確に周知する必要があると考えます。これについては、残念ながら国や東電は信じがたい組織となっているため専門の機関や学識者を国内のみならず、海外から誘致して徹底的に調査・分析・検討して証明する必要があると考えます。
- 除染とかインフラ整備以前に廃炉作業によって起こるかもしれない事故を徹底的に煮詰めなければなりません。国、県、東電が意識して表面に出さないようにしているように感じられてなりません。私達が双葉に戻るにはつぎの2つが必須の条件です。
 - a. 安全な廃炉作業とこの早期終了
 - b. 浜に戻ったとき、生活出来る仕事があること
- 大変遅くなりましたが意見を若干述べさせていただきます。
双葉町復興まちづくり中間報告の内容ですが、結論から申し上げますとこれでよいと思います。
しかし、どこの街づくりにも共通する無難なまとめと見えます。
ここで一言申し上げたいのは、私達の町は恐ろしい東京電力福島第一原発から3 km～6 km位の位置にあります。現在、汚染水は垂れ流し、どんどん増えるばかり、放射性物質の飛散も止めることもできない。そして今度は、中間貯蔵施設が間もなくできどんどん他市町村から運び込まれてきます。
至近距離がこんな状態では何名の町民が戻ってきますか？
恐らく、若い方々、特に将来のある子供達を持つ親は戻ってくる方が少ないのではないかと思います。莫大な投資をして街づくりも大事なことだと思いますが、まずは、国の強力な力で東京電力福島第一原発の汚染水完全防止、核物質の飛散完全防止、中間貯蔵施設の完全貯蔵・地域の除染の徹底等々、国の強力な力で安心・安全な地域作りをしてからでも遅くないのではないかと考えます。
とにかく息の永い話になりますが、子々孫々に至る迄、禍根を残さないためには、この位の覚悟が必要かと思えます。
- (1) 町内復興拠点の配置の考え方 ①町内復興拠点と放射線量の関係について除染効果が高い(低減率59%)場合の試算で・・・安全・安心を双葉町の場合は特に訴えていることから除染効果は標準か低い低減率を使用すべきではないでしょうか。町民に異常な期待を持たせることにならないでしょうか。(p21)
- 中間報告書内本文①と②について、汚染濃度、放射線量が低い高いではなく、事故前の値が前提。それと町内に低い箇所があってもそこにアクセスする場合、少なくとも放射線を受ける。どうするか？

3.町外における生活再建の充実を求める意見

【町民一人一人の生活再建に向けた取組の推進】

- 「町民一人一人の生活再建の実現に向けた取り組みの推進」と、復興まちづくりの進め方の項目の中の一つなのですが、この項目を中間報告書の中軸に持ってきたらどうなるでしょうか。復興まちづくりの映像が鮮明に表現されるのではないかなと思っています。まちづくりのプランは、あれもこれもと必要さを感じますから、ついつい取り入れてしまい総花的に流されてしまうものです。それだけに絞り込むことは勇気のいることです。でも、それをしないと見た目はいいけど、肝心の町民の意識は薄れてしまうのではないかと心配します。「この一点にあり」の絞り込みが、先が見えない状況の中にあっては中心性をもたらし、光明となるのではないだろうかと思います。
- 私がまず役場にしてもらいたいのは、いまやっている町民が町外それぞれ希望する場所で住宅を確保し仕事や生きがいを見つけて日常の暮らしをすることです。そして交流の場面を多くし、町外での町民が仮設住宅から復興公営住宅に入ることです。町内でのまちづくりはそれからでも遅くないと思います。それでなくても除染の問題や中間貯蔵施設の問題など震災前の双葉町にはもどれません。双葉町が廃墟のまちにならないためにも。これからの子供たちの未来のためにも。美しいふるさと双葉町をとりもどすには、町民が頑張るしかないと思います。
- 断腸の思いで帰町を断念せざるを得なかった元町民への支援策を検討し、計画的に実施継続すること。
- 中間報告書内本文③について、避難した先は人それぞれ物価が違う。もちろんそこで就職する場合、就職先が多い所もあれば、双葉町の様に少ない所もある。その辺をどう考えているか？

【医療の充実】

- 現状不足しているところを充実してほしい
ex 産婦人科医（いわきの人も産むところがさらになくなったと訴えています。これは急務です）や医療の充実等
- 今住んでいるいわきでは、双葉郡の人たちが来たことによって医療がいきわたらなくなったという声をよく聞きます。こうなってしまった以上は数年後を見ていくのも大切ですが、今現状の維持が大切と考えます。（産婦人科医の拡充等）

【福祉施設の整備】

- 私達高齢者にとって、人生の最終地をどこで迎えるかが心配なことだと思います。震災前にあった特別養護老人ホームせんだんのような介護施設を整備して頂き、希望者が全員安心して入居出来るようにして頂ければ、気分的にゆったりと日々を暮らせると思います。是非とも、長期ビジョン策定と並行して、喫緊の問題として進めて頂くようお願い致します。

- いわき市が役場の拠点になっているためか、仮の町がいわき市です。そして、その仮の町には各施設（クリニック、老人ホーム等）も建設計画中です。なぜいわき市だけなのか？疑問に思います。他の地に避難している我々が悪いのか？各地に居る双葉町民が、平等であるためには、双葉町民が避難している各地区に建設されるべきではないのか？問いかけます。考えて下さい。

双葉町の老人ホームせんだんに入居していた方40数名は、那須塩原市の老人ホームに移住しています。（避難当初 H23.4）現在も数人入居しています。いわき市へ移住するのでしょうか？私は、いわき市だけでなく、白河市、郡山市へも老人ホームの建設を要望します。

【税制の優遇、賠償の充実等】

- 双葉町の復興の為に、まず、双葉郡の町村長会議をして国に相続税の免除及び軽減をお願いいたします。
そうでなくては、町民がお金が無くなり、復興の妨げになり戻ることができないと思います。特に若い人たち。
- 双葉に帰ろうとの気持ちを持続していくには、避難中の豊かな生活が必須であると考えます。そのためには、国や東京電力に対して長期化した避難生活が極めて厳しいものである（金銭のみならず精神的に）かを、更に強力に訴え賠償や補償の充実を徹底的に強化させる必要があると考えます。
日本では累進課税の制度があり、避難生活が長期化すればするほど故郷での生活時間が短くなることを国や東京電力に理解させ、避難生活の期間に応じ累進賠償をさせる等の交渉が必要であると考えます。
- 【町外における取組の事例】町民一人一人の生活再建の実現に向けた取組の推進 原子力賠償の中で、精神的損害については、一人当たり700万円追加で、とされていますが、4次追補では1000万円の追加、条件があって700万円の追加としています、補足してはどうでしょうか。（p17）
- 短期対策について
 - 1 医療費、高速道路通行料の無料化の継続
 - 2 各種税金、手数料の無料化の継続
- 賠償で弁護士さんを頼むと、驚く程高額がかかる。どうすればいいのか困っている。

【県外避難者支援】

- 2項復興まちづくりの目標・基本方針（2）復興の基本方針Ⅰ町外における生活再建の実現の基本方針内容の中で、双葉町民が集まって居住できる復興公営住宅をいわき市、郡山市、南相馬市、白河市に整備します、と県内に限定しているが 県外にもまだ4割の町民が避難しています（福島に帰ることを希望しない町民もいます。）。なぜ、県外は検討しないのでしょうか。
県内であっても他の町の復興公営住宅に住む町民もいると聞いています。県外にも 計画してはどうでしょうか。みなし仮設のように、みなし復興公営住宅というものもできるのではないのでしょうか。（p10）

- 町長さん、議員さんも自分の事しか考えていない様に感じます。復興復興と言っているが双葉町にどれだけの人口が集まるんですか？

県内の人達の事だけで県外にいる人達の事は何をやっても後回しになっている。今、中間処理場のことだって最終処分場になるかもわからない所に帰ることが出来ますか？中間処理場を作る場所の所の人達はいいけど近くで残る人達はどのようにするのですか。30年後お金を掛けるなら、双葉町と大熊町は最終処分場にするしか無いのじゃないか。

町長さんも議員さんも町民の意見をしっかり聞いて取り組んでもらわないと町民は路頭に迷うことになってしまいます。県外にいる人達の事をもっと考えてほしい。町長さん、議員さんの取組みがわからない。もっとしっかり取り組んでもらいたい。目に見える様に。

- 住民（特に県外避難者）は県内に帰りたくても帰れない事情をかかえていることに充分配慮されたい。帰れるまで県外での生活が出来ようをお願いしたい。

現在、居住している住宅が期限が迫っている不安を解消願いたい。

高齢者は病院が変わることが大変苦痛であるので、転居はしたくないのが正直な気持ちである。

【町外復興拠点】

- 復興まちづくりの大切な事ですが、現実的には中間貯蔵施設の県外処分や廃炉など早くとも2,30年はかかると思われます。

しかし現在、地元に戻りたい希望者は、ただ古里に戻りたい一心ですが、殆ど高齢者で、それまで待てないでしょう。まして若者は戻る意思はないと思います。

無駄な古里への帰還をせず、各地に散らばっている町民の良い場所を核に、3～4ヶ所、国有地又は民間地を確保し、家を建てる人のための分譲地、新たに町に必要な施設を整備し、ミニ双葉町を作ったら良いと思います。

まもなく4年になります。仮設住宅の人々が一日も早く安心して生活できる場を作るのが復興に向け早急に解決すべき問題です。土地がみつからず、家を建てる事が出来ない人も大勢います。

- 町外に住居を構え、生活再建する人達へのビジョンが具体的ではない。町は人を戻そうとしているが、これでは特に若い人は戻らない。町外（福島県内または県外）にその地域と連携し、リトル双葉町を作るのも一つの手段では？

- 3項の絵の中に、福島市、加須市、つくば市には一定の町民が集まっていることから、町民の集い（コミュニティ）の場を検討する、としているが、すでに3年9カ月も過ぎていることから対象町民に今後住まいを含めどのようにしたいのか、アンケートではなく具体的に聞かれてみてはどうでしょうか。これでは通り一遍のような気がします。（p11）

【復興公営住宅】

- 復興まちづくり計画と各所、つまり郡山、いわき市、福島市などに出来る復興住宅は連けいがあるのですか？

- 私達は避難生活をして、4年を過ぎようとしています。双葉町の復興ビジョン町づくりの生活再建の実現に向け取り組んでいるようですが、双葉町に戻る人達が何人いるのでしょうか。30年かけ再建しても、又現在、双葉町の人達は、大半、家を建て生活している状態です。早く公営住宅を建てて頂き安心して生活をしたと私は感じております。

【仮設住宅からの移行支援】

- 双葉町の長期ビジョン計画、本当にこのようになるならとても喜ばしいことです。しかしながら、これらから中間貯蔵施設が出来、毎日ガレキが運ばれてくる原発は相変わらず不安定でいつ何時、どうなるか分からない。こういう時期にビジョンどころではないと思います。まずは、今やらなければならないことがあるでしょう。いまだに狭い仮設住宅にいる人達が大勢いることです。いつまで仮設に詰め込んでおくつもりですか。みんな夢も希望もなくしてしまいますよ。ただ死を待っている。そんな気持ちになっている人もおりますよ。各県、各市町村長と直談判でもなんでもして、あいている土地・アパートなどを使わせてもらったらどうでしょうか。一日でも早く自分の家が出来れば、明日の希望も見えてくると思います。なんとか仮設から出してあげてください。それか全員が仮設から出て終わってから、ビジョンなるものを考えるべきです。

- 避難生活も3年9ヶ月を迎えました。仮設住宅等入居者の住居形態等、町行政は早急に進めるべきではないかと思えます。行政は組織体系により常に避難住民の状況を把握し対策を推進すべきと考えます。

【双葉町とのつながりの維持】

- より双葉町としての意識づけと求心力を失わないように、具体的な提案・希望を記述いたします。
町外での取組)
 - ①双葉町復興バスツアー企画
 - ・癒し系音楽を車内に流し、激励のメッセージを書いた横断幕をバスの側面、前後に掲げます。また、幕は記念写真でも使います。
 - ・時期は、元旦初日の出詣でから始まり、月1回、いわき市役場事務所発、20名以上。
 - ・随員は、国、県、町職員各2名、それと町議会議員4名の計10名。
 - ・コースは、町内主要幹線道路、歴史文化遺産、公共施設、除染現場、中間貯蔵施設、第一原発など。
 - ・小・中学校での教育の場でも実施。

【記憶の継承】

- 双葉町の持つ歴史、文化、産業、他、双葉の魅力の存続は、何よりも大切なことです。実現は無、空論としか云えない現状は悲しいことです。記録誌として永久に残すことが現在の最大事と思えます。私達は「双葉に帰りたい」その気持ちは一様です。「帰れない」からこそ諦めの心持ちで馴れない処で第二の家を求め、生活を余儀無くして居ります。以上申し訳ございません。乱文にて

【人材育成】

- 帰還を考えた場合、

中間貯蔵施設設置判断を予定地の地権者としているが、町への帰還意欲のある予定地外の人からは我々の意向を聴けとならないのか。設置と同時に町民の帰還意欲は激減すると予測する。

7千町民が町内の復興拠点内に住むことは現実的に不可能と思われる。

拠点に由来から住んでいた人は抵抗がなく住むが、周辺行政区の住民が住むかとなると疑問。結果、拠点の物理的面積もさることながら住む方々は一部に限定される恐れ大。町民一部の復興となるかも。

町内での取り組みを充実させるためには、それを担う人材の育成と確保が要件であり、それは今からはじめる必要があるはず。また、若年層が住みたくなるような安全・安心な生活環境を整備することが重要。その仕組みは若者（小中高生）が考え創ることが当事者意識を醸成する。

安心して子供を生み育てる医療環境、自然環境、経済的環境が充実していなければ若者は来ないし住まないし住めない。

そして、これらがベースとなりその上にコミュニティが成立するはず。

- 次世代の双葉町を担う人材の育成とは具体的にどのような事をすれば良いのかわかりません。長期に双葉町を離れ双葉町の戸籍を別の町に変えてしまう方が増えてしまう気がします。その対策も個人の考えに委ねるとするなら賠償がほぼ落ち着く頃に町民の数を考えてからにした方が良いのでは？

【放射線教育】

- 放射線量率に関する啓蒙の必要性。講演会の実施、放射線教育の実施

4.期間の明示を求める意見

- 双葉町の復興ビジョンの取組みが前進していることは評価しますが、根本的に廃炉の進行状況、除染、放射線の低減度合及び人体的影響などを示し、タイムスケジュール計画を立てないとした絵に描いた餅になってしまう。

- もう3年半をすぎ、何もできていない何も基盤構想がない。これではたんなる妄想では。話にならない。何年で何を作る、あと何年でこれを作るなど明確な目標がないと戻る気のある人でもだれも見向きもしなくなるだろう。

- 双葉町復興まちづくりビジョン1ページ～39ページまで拝読、今後の町づくりに対してすばらしい内容でした。
でも何時実施するのか。
施行実施年月日を書いていない。
町内の除染を何時終わらせるのか。
何時頃住める町になるのか。
双葉町の復興が何時？整備は何時？産業創出は何時？5年後？10年後？それとも30年後。
最も重要な事が、復興させるべき年月が書いていない。
すばらしい内容でも実施日が書いていないと言う事は、ただの絵に書いた餅であり、何の内容も無い夢を羅列したにすぎない。
駅西開発他新産業創出ゾーン夢物語だ。
誰も住む事が出来ない町に10階建ショッピングセンターの計画しているのと同じだ。予算の無駄づかいの様に思う。
- 長期ビジョンを読むといろいろな構想がありますが、はたして実現出来るのでしょうか？実現出来るとすれば何をいつまでに実施すると言う具体的な内容を知りたいです。
- 理想的な計画だと思いました。残念なのはいつから始まり、何年で終わるのか、まったくわからないことです。
- 双葉町は帰還困難区域と避難指示解除準備区域に2分されている。
浪江町と大熊町の隣町は居住制限区域を含めた3区域に分けられている。
先行している2町とも避難指示解除準備区域に復興拠点を整備しようと計画している。
双葉町は避難指示解除準備区域の範囲が狭いにもかかわらず、そこから帰還困難区域の国道6号に至る地区から双葉駅周辺までを復興拠点と位置付けている。
まず区域再編が先であるが、その時期は2017年なのか。町内復興拠点の段階的な整備イメージは示してあるが、時間軸を示してどれぐらい先のことなのか町民が分かるような絵図を示してほしい。
- 止むを得ないとは云え、町への帰還時期が示されなかったことは、町の計画だけでなく、避難している多くの町民が、自分の今後の生活設計すら立てられず、改めてくやしい思いをさせられた。
- 概要版しか読んでいませんが、街づくりの時期が明記されていませんし、もどる時期の計画もたてられず、現在住んでいる居住地に落ちてしまう可能性があります。
復興に関して時期を明確にしていきたいと思います。
- 復興拠点の整備として幾つかのゾーンが提案されています。このゾーンは、もしかして双葉町の中核かもしれませんね。現実化するには土地が自由に使える状態でないと、どうにもなりません。私有地を町が買い上げて町有地に、または借り上げて使える土地を用意しなければなりません。恐らく30年後「町に戻れる人は」を考えると、今から土地の対応についてしっかりと町の方針を打ち出さないと後手になり、各種のゾーンの実現は望めなくなるでしょう。中間施設が出来れば、双葉町の景観は一変するでしょう。その時になってゾーンをどうするかでは、遅すぎて「手の打ちようがない」そんな状態になるかもしれませんね。
「新しい町を創る」その為には、具体化出来る土地が用意されているかが、問われてくるのです。先手必勝の構えが求められていると思いますけど。

- 帰還の見通しが明確になっていない現状ではこのような表現しか出来ないと思います。ただ子供達の未来のためとありますが今後 20～30 年経つと移住先で就職もし結婚もしているのではたして戻って来るのか疑問に思いますが期待するしかありません。長期ビジョンも必要かもしれませんが 5～10 年の短期ビジョンが私達にとっては重要かと思えます。私達には時間がありません。

5. 町内復興拠点への意見

【町内復興拠点の配置や整備の考え方】

- 双葉町の町づくりについては、双葉駅、厚生病院、双葉町役場を中心として再開発を行っていくしかないと考えます。自分も含め、今を生きるのが精一杯ですが、将来無人の双葉町にはして欲しくないと思います。誰かが先陣を切って進めなければ双葉の再生は無いと思いません。
- 私は古い人間なのだろうが、双葉町はやはり、あそこに病院があり、そこに作業所があり、そこにコンビニがあり、そこに役場があるという昔の双葉町が理想であり、線量が低くなったところに町を作るのは反対である。やはり住み慣れた町が理想だ。それは無理にしても。

【進め方】

- 現在の双葉町は震災後 3 年半にもなるが、一時帰宅に行っても往復の時間がかかり、草ぼうぼう、手をつけられない状態です。まず、除染もさることながら、町の清掃をやって戴かないと帰ると云う気持ちが出ないので、それを終わり、ライフラインを確立させて、日用品の買出し、銀行など、床やさんが出来る様に若い人が住んでもよいと思われる状態が必要と思えます。
- 小さな研究センター（地質学、原子力、その他）や緑地（公園）等を作り、人々がある程度往来が出来るようになってから、次第にプロジェクトを進めて行く方向はいかがでしょうか。無知の者の意見ですみません。

【インフラ等の整備】

- 中間貯蔵施設へのアクセス道路と帰還・復興に使われる道路は違うものにして欲しいと思います。
- 除染、中間貯蔵施設運用に必要な道路の整備、減容設備の設置
- IC が寺沢に作る予定のようですが、R288 の道路を整備して山田に IC を作ったほうが、中通りまで避難する時も便利だと思います。
- 再発原発事故対策としての避難道路及び原発汚染物質搬入道路の整備（西方面を重点的に）
- インフラ整備
除染、復旧・復興の為の、主要公共施設への上下水道など、着手初期時からの部分限定ライフライン整備。
非常時を想定した、中通り地方、常磐自動車道へのアクセス改善、拡張工事としての 288 号線整備。
- 帰還・移住のための飲料水の確保

●各種インフラ対策

●JRの復旧が地域再生に不可欠である。

●JR常磐線の復旧のニュースは見当たりません。常磐道双葉インターチェンジ設置とそれに合わせた復興をベースにJR常磐線はその次に位置付けるのが現時点での現実的な計画の優先順位ではないでしょうか。

●これから、旧市街地の整理と再生にあたりと同時に、駅西側の大規模な開発も想定されると思いますが、そこでネックになるのが常磐線と道路のクロスです。災害を機に、双葉町内の線路そのものを高架にすることで、線路の東西交通の円滑化は、これまでの震災前の難題を一気に解決します。その効果は、容易に想像できるものと思います。駅舎については、これまで通りでも良いし、高架の下でも可能です。駅コミセンは、もともと二階通路は着いています。

M9地震が現実としてあった以上、これからの備えとしてM10の地震と津波を想定しなければなりません。それに耐えうる施設として、造れば頼りになる施設です。

従来のままの復旧をやられるとこの先100年は、震災前と同じ課題を抱えてしまいます。そうなったら駅西開発はまたまた遅れてしまいます。

●スマートタウン構想

●一時帰宅で家の片づけを行うのですが、ゴミの処理に困っています。集めてもらえると助かります。

●内容的には、町というよりもJR関係です。

前田の鉄橋も落下し、線路の地盤そのものもかなりのダメージを受けている現状で、大熊から双葉間の常磐線の復旧はかなり先になるかと思えます。

そこで、今なら区域再編までの期間を活用して、JR水戸あるいは本社に対して、双葉町から浪江町にかけての線路を高架複線化を強く要望して頂けないでしょうか。

この区間は大野駅が双葉駅よりも標高が高く、下り列車はかなりの下り坂を降りてきていました。また上りはその逆で坂を上る形でした。おそらく、水戸ではある程度の復元を想定しているものと思えますが今回の大規模被害をチャンスとして、富沢ちくから前田川鉄橋の高さレベルを維持して、双葉駅そのものを高架複線する案を検討してください。

【産業・雇用の創出】

●生活基盤の確保のための産業の再生や新たな産業の創出についてですが、農業再生の具体策をどうするか、またその他産業に従事する者はどのような産業や職種に従事でき、長期継続して雇用が維持されるのかを具体的に施策を明示する必要があると考えられます。農業については福島産の農産物が放射能の影響がないといっても買い控えられたり、価格が安く設定されている現状を踏まえて、販路開拓と維持、価格の保証(国や東電に対して価格が下げられた分を補償させる等)について具体的に施策を明示する必要があると考えます。

また、産業の誘致については東京電力原子事故発生以前ですら十分な作用がなされていなかった町に、諸々の不安を抱える状況で簡単に新たに進出してくる企業があるとは考えにくく、国が一定以上の規模の大手企業に生産拠点の一つを設置するように義務付けたり、東京電力が関連企業に同様の活動を行うように義務付けたり、場合によっては町に国営企業を創設するように国に働きかけ確約を取り付ける等あらゆる具体策を決定し明示する必要があると考えます。その際地域全体の活性化を目的として一社依存にならないように留意する必要があると考えられます。

●既存産業の再生—植物工場として小中高施設活用。

- 3. 町内での取組（5）町内復興まちづくりの段階ごとの取組 町内の取組【復興着手期～】
【復興先行期～】復興を牽引する新たな産業の創出 この中に町民の雇用につながる施策が必要ではないでしょうか。（p31. 33）

- 復興支援が行われている期間内での外部ビジネス他の地元への勧誘

- 双葉町の復興については骨折り頂いて居ることに感謝申し上げます。一部私の考えを申し上げさせて頂きたいと思います。まず農業について申し上げますと、双葉町は農業の町と言われて参りましたが私はそうではないと思います。原発有っての町でなかったではないでしょうか。町の財政を支えて来たのは原発ではないでしょうか。その原発が無くなった今町の財政は勿論家庭の経済も成り立たないでしょう。大型農業になれば人口が少なく、そして若い人達に農業をやってもらうには基盤整備から始めなくては、それに水利の問題、細かい問題が多く有ると思います。

こうした問題を先に解決しなくては、一人でも多く残ってもらうには、働く所が無ければ町の人口は多くなれないと思います。掛け声だけでは前に進みません。農業も大事ですが、先にやらなくてはならない事は企業の誘致ではないでしょうか。それに来てくださいではだめでしょうから向こうから進んで来てもらうよう、企業から切り離すこと出来ない電力を少しでも安くすること、それには太陽光発電、又は風力発電を作ることではないでしょうか。

- 長期対策について

- 1 山間部については間伐材・木クズによる木質ペレットの製造及び再生エネルギー対策
- 2 農地利用の高床式太陽光発電と農産物生産

- 津波災害への備え・他などー復興祈念公園と20m高のドーム型太陽光発電機能付で屋上有効活用複合型フラワーセンター&植物工場統合管理施設。

- 復興産業拠点としての、工業団地地域の整備。

- 今までの延長で考えても人は集まりません。

まずは、インターナショナル的大学の配置（つくば学園都市風）（国内外の大学による人材・設備・発展）

医療特区にする。

各部門の専門的病院（例えばエボラ等を管理するようなもの、ゴットハンドの先生の指導による門下生を活かす病院（ゴットハンド人を育てる）

【農業の保全、活用、再開】

- 双葉町の田畑はそのままにしておきたいです。お願いします。

- 町西方面、原田羽鳥方面の耕作不能田畑を活用することも考えてみたらいかかが

- 農業再開モデルについて

試験的に耕作し、線量を測定した結果にもよるが汚染地域での生産されたものを買って食べる気にはなりません。

- 毎日先々の見えない日々の暮らし「いつの日双葉町の町民が双葉町へ戻って生活が出来るのか」いつもこの様な事を考えています。毎月一時帰宅で帰って見れば、あの田畑宅地の荒れ放題、田や畑を見れば荒れた田の中柳や雑木3～4mに伸び、幹も太さ径が5cm以上、あと3年も経てば、径10cmになると思います。

私の考えは、浪江町酒井の耕作した「稲が食用にOK」と言う。双葉町も一度除染をして、放射線の低い地域を試験的に稲作りをやって見てはと思う。避難生活が長くなればなる程、双葉町へ戻る（帰る）人が居なくなると思います。一日も早く除染をして放射線量を下げて前田川の鉄橋（常磐線）を復旧させて東京から相馬、仙台へ行ける様にしなければならない。双葉町民の夢は「いつの日双葉町へ戻って暮らせるのか」そんな思いで毎日を過ごしていると思う。「いつ迄も帰れない」では生きて行けない。精神的賠償もいつかは切られると思います。

【新たな魅力づくり（観光）】

- 全国の自治体で頭をいたくしている問題に人口減少、自治体の消滅の問題があげられている。復旧復興のために公園もよし、太陽光発電もよし、だが、それによって双葉町の人口が増加するだろうか。双葉町に帰還する人達がわが郷里に帰ってくるであろうか。

双葉郡の他町村にないものを

例えば公園に充実したすばらしい遊具を充実させること、魅力ある遊具をめざして双葉町に訪れる人たちも多くなるであろう。

又、全国各地から商店を募集し宮城県名取市の（アウトレット）郊外とか栃木県なす市にあるような大型のショッピングセンターを作ることによって双葉町を訪れる人を一人でも多く、そしてひなんしている人も帰還したいという望み、それによって自治体の人口減少に歯どめをと考えたい。近くに中間貯蔵施設があっても安全であることをアピールすることによって、観光に役立てるような方策を考えていかないと暗いイメージだけしか残らないような気がする。いずれにせよ、人口減少をくい止め、自治体が消滅することのないような対策が欲しい。

その他の問題については紙面不足のため。

帰りたい双葉町に一日も早く帰りたいの心境で日夜考えている。帰れる日を待っています。

人を呼び集めることの出来る町づくり、住んでみたくなる町づくりを目指して。身体に気をつけて

- 長期ビジョンの構想に協力します。計画が具体的でとても良いと思います。

しかし農業の再開は何十年先になるか、生産性は見込めないと感じます。農業に頼らず、新事業で双葉町を再興していくのが私の理想です。

超大規模レジャー施設はどうでしょうか。東京ディズニーリゾートやお台場、大阪のUSJと同じレベルの何年も入場が期待できるものを造るのです。普通の遊園地レベルではすぐに飽きられ、赤字、閉園、そして町もみじめになるので中途半端な施設ではだめです。いわき市のハワイアンリゾートは良い例です。地域一体となって盛り上がっていて黒字ですね。

日本人は、食べ物と娯楽が大好きな民族です。毎月一回でもB-1グルメグランプリなるイベントを双葉でできる施設があれば、必ず人は他県からも集まります。ただし、東京を参考にしてハイセンスなやりかたをしなければ失敗します。

アニメ文化からヒントを得ても良いのでとにかく双葉町にしかない、双葉町にみんなが行きたくなるレジャーランドを推進します。

- 「福島第一原発観光地化計画」編集人・東浩紀この本を手にしたとき「ええ、観光地化?」と、抵抗を感じました。でも、読み進めていく中で「そうだよなあ上と、本気になって考えるべきだと思うようになりました。

一本書が提案するのは、原発敷地および周辺地域の一般市民への全面的な公開です。100年以上かかるかもしれない廃炉作業について、国民全体で監視する必要があります。また事故の愚かさを国民全体が学ぶ必要があります。

そのためには一般の市民が自発的に事故跡地に来る仕組みを考えねばなりません。その動員のため欠かせないのが「観光地化」です。観光は悲劇の共有や学びの手段にもなりえます。併用して、「チェルノブイリダークツーリズムガイド」編集人東浩紀・紐解けば明確な映像を描くことが出来ましょう。いわき出身の社会学者開沼博氏(福島大学うつくしまふくしま未来支援センター特任研究員)も編集の一人になっていますので、お呼びして勉強会を開くのも良いんじゃないですか。

【海岸堤防・海岸防災林の整備】

- 津波により、家、車、バイク等、全て流され何も残っていない場所を見るのは大変悲しいことです。私達夫婦は、まだ一度も戻っておりません。

・この先、何十年後かにふたたび同じ災害が起きても、充分に対処できるような堤防の復旧、整備、海岸防災林の整備などに、十分に力を入れて頂けたらと願うばかりです。

【暮らしの安全対策】

- 双葉地方の、除染、復旧・復興に当たり、絶えずその作業環境を充実させ、安全・安心の観点からも最善のものにする努力を惜しまないように持続継続することを、切望いたします。

- いつの日に帰町できるのか、生きてはいないと思います。
知恵を出し合って災害に強い町作りができたらとよいと思います。

- 対策に係る基本問題

- 1 原発事故に伴う各種対策
- 2 原発事故に伴う人口変動を加味した人口減少と少子高齢化対策
- 3 日本は地学的に世界有数の火山国・地震国であり、当地域もその点を考慮した減災対策(今回東日本大震災対策を含めた)

- 将来(避難指示解除後)、安心して子供を産み育てることができる環境の整備についての視点が不十分のように思われます。

(例) 震災以前の空間線量環境、放射性物質濃度環境(土、水、空気、飲食物)の整備地域設定および維持管理、さらには整備地域からの移動ルート整備。

- 労働者の悪行がないように。

【除染・放射線量モニタリング】

- 復興拠点内の除染の実施⇒町役場を有効活用。
- 除染(モニタリングを含む)作業への地元参加。有能な地元作業員の育成

- 双葉町復興まちづくりは、帰還・復興に向けた考え方(安全・安心を前提とする)で、大変な諸問題があったと思われます。大熊町の復興計画も新聞等で拝見しました。双葉町の避難指示解除準備区域の4%の狭い土地から、どの復興計画も始まりになると思います。大熊町は、除染が始まり、3000人分の食事をまかなう給食センターの建設計画、それに伴う施設計画等、双葉町は大きく計画が遅れているように感じます。双葉町も、まずは、4%の地区の除染から始まりでしょう。そして、区域区分に関係なく、徐々に各家屋も除染をしてほしいです。益々老いていく私が生きているうちに、居住、もしくは一時居住ぐらいまでは出来るよう、せめて死ぬ一日前でも良いから、早期に実行してほしいです。
- 一日でも早く帰還できるよう早急に除染を実施することが重要である。線量の低い場所から除染すべきである。動かないと何も変わらない。
- 汚染は、山、田、畑、宅地、家屋、道路等すべての所が広範囲になっています。駅周辺だけ除染しても住む事は難しいのでは。家屋や道路から20m程の除染では線量は下がらないと思う。年間1msv以下になったら帰る人も居るのでは。
- 復興町づくり計画についてのイメージは理解できました。一番不安なのは放射線による影響だと考えます。環境省からの発表は何%の減少といった数値の発表ではなく現在の放射線量をきっちりと示すべきだと思います。表現の仕方で受け取り方が違ってきてしまい、例えば50%減というところすごく下がった様に受け取りがちですが、実際はまだ高いわけです。現実には、高い放射線量を示す場所もあるのです。今後、自然減による放射線のレベル等を町単独でデータを取り、国にも示し協力を得ながら、やれるところから前に進んでいく必要があると思います。飯館地区は他地区に先立って除染が始まりましたが、現在も続いています。いつ終わるかもしれない除染作業ですが、双葉町もできることから進めていかないと更に遅れてしまい、少しずつ町民の心も離れてしまうと思います。

【宿泊施設】

- 双葉町で生まれ、生きてきた人間として、他の人は何とも感じない物や風景も得難いものばかりです。一時帰宅のたびに、荒れ果てる自分の屋敷内を眺め、国はこのままの状態です。いつまで放置するのだろうかと感じます。生計の要だった農地は、全部中間貯蔵の敷地に入ります。住宅だけが残されている現状では、どうすることも出来ません。でも放射能が低くなったとき、時々でも帰ることがあるとすれば、宿泊施設を考えていただきたい。これから計画されるかも知れない復興記念公園でも出来たら観光で訪れる人は宿泊出来ればと考えます。

- 私がこれに加えるとしたら宿泊施設です。
町に帰れる日がきても、生活の場を双葉に移せない人や里帰りのための実家がなくなってしまった人のためです。
いずれそういうことが観光につながっていくかもしれない・・・
そのためにも、もうひとつ。海岸整備です。
海が見えなくなるほど大きな堤防はやめてください。
体験した人はわかったはずです。津波到達までの少しの時間でできるだけ遠くにできるだけ高いところに逃げるしかないってこと。このことをずっとずっと1000年先まで伝えていくことです。
そして海は、双葉海水浴場を復活させるべく、より美しい景観、より充実した施設・設備で人を集める魅力をもってほしいです。
今の私のできることは双葉町を残してほしい、忘れないで・・・と子世代、孫世代と伝えていくこと・・・だと思います。

- 一時帰宅の休憩環境整備—ヘルスケアセンター整備有効活用。
⇒一時滞在支援施設機能充実—青年婦人会館と双葉厚生病院整備有効活用。

【共同墓地】

- 共同墓地の整備、一時帰宅の休憩の整備。
早くしないと双葉町がなくなってしまうです。
- 中間貯蔵建設も計画されているが、私が、死んでお墓に入れなくなる事も困ります。この地域の墓の移設建設は、個人でなく、県、東京電力で、行って頂きたいです。訴えて下さい。

【記憶の継承】

- 帰還できる頃の双葉町、どの様にあって欲しいか。昔のままとは絶対にならないのなら、広島平和公園のように原発事故によって失われた歴史を後世にしっかり残せる形にして欲しい。

【新たな生活の場の確保】

- 住宅等も都市型住宅にすれば如何でしょうか。人口が多くなれば、そして財政が良くなれば色々な施設（教育、病院、老人等々）は自然と後から付いて来るのではないのでしょうか。以上失礼
- 新市街地ゾーンの町西の土地、建物の整備を早くすることが生活再建につながると思います。
- 町外（国内外）からの移住者（研究所、関連企業等）を積極的に募ること。
- 復興完了までは、避難先と双葉町の二重生活になる可能性が高くなると思われませんが、その視点が不十分のように思われます。（一時滞在支援ではなく中長期滞在の視点が不足していると思われます。）
（例）町民用ディリー・ウィクリー・マンスリーマンションの整備。商店・飲食店・クリーニング等生活サービス店・娯楽施設などの機能を有する施設の整備。
- 私は借家住まいでしたが仮にもどれるとしたら、土地や家屋について確保も出来るのでしょうか。

【生活関連サービスの確保】

- インフラが整備されないと（病院、ショッピングセンター等）高齢になると車の運転もままならなくなり不便を感じると思う。

- 人が住んでいない所の医療、商業

商売にならない所へ店を出す人がいるのでしょうか。

- 私自身の年齢から見まして、一番大切なのは、インフラの整備と病院、お医者様の確保ではないでしょうか。

主人が病気で倒れてから、16年目に入りましたが、いつも頭にあるのは「急に具合が悪くなったら」という心配をしながらの毎日の生活です。

双葉からいわきの病院に来るのには、一時間以上かかります。それを思えば、大きな不安の材料でもあります。

又、高齢の方々が、町への帰還を望んでおられると聞いております。第一に必要なことは、医師の確保になるのでは？

- 幼（保）と小一貫校に社会福祉施設を併設

【既存中心市街地の再生】

- 駅前商店街の建物を残すのか、又、新しく商店街を作るのかを明記したらどうでしょうか？

【交流施設の確保】

- 町民の集まることの出来る場確保してください。

【教育環境の整備・雇用の場の確保】

- 放射能、廃炉等、各種研究室の設置・研究要員の養成

- 学校の再開

若い人達が双葉に帰って、働く所がなければ、子供達が双葉の学校に通うこともないと思います。30年先のことは。

- 高齢者だけが帰っても若い人が帰らなければ町としてなりたないのではないのでしょうか？

【生活再建できない土地の活用】

- 町に戻ろうにも、帰る家もなく、修理などが必要でも家が残っている人達がうらやましくもあります。

又、家が流されたことにより、自分達の家を新しく持たなければならない為、金銭的にも色々大変でした。

生活再建の出来ない土地・宅地などの活用を皆様のお力添えで再現して頂き、良い場所に住んでいたと思いながら人生を終えることが出来ればと願っております。

【周辺市町村との連携】

- 本町は、郡内の町村の中でも、復興の速度が最も遅れているように見える。このために郡内に立地するプロジェクト等が他町村に先行されないよう留意すべきである。例えば、長期ビジョンの中では「新産業創出ゾーンに研究開発・新産業の拠点として、事業所、研究機関等の誘導を進める。」としているが、これらはどこの町村でもそのように考えていると思う。広域で考えるべきものは管内の町村で十分協調し、「早い勝ち」にならないように十分留意すべきである。

また、長期的には、町村合併ということも念頭におくべきだと思う。

● 1. 復興推進委員会について

町復興推進委員会内での検討だけで長期ビジョンを推進する事には、今次原発事故に伴う状況は多岐に渡り、双葉町一町だけの復興推進は無理と考えます。双葉郡の各町村、県、国との連携がない限り復興推進は出来ないと考えます。現在、町村長会、町村議長会、郡復興推進会等の組織に町推進委員会会長等が参加する必要があると考えます。

2. 郡復興推進委員会の権限強化について

教育、医療、介護等その他を含めて、人口変動状況が原発事故によりその推移が非常に困難な情勢におかれている。このような状況下で町単独では復興推進は至難と言える。

したがって、双葉郡復興推進委員会の拡大・強化を図り、郡の長期ビジョンを作成し、その上で各町村の長期ビジョン策定に入れるべきと考えます。その道程は時間が掛かるとは思いますがこれしかないと思います（県・国参加が必須）

又各町民の帰還の状況によっては、町村合併も避けて通れない過程の一つとなると思われる。

● こんにちは、長期ビジョン中間報告概要版作成にあたり、お疲れ様でした。

拝見いたしました。立派に作成されて一瞬目のさめたように嬉しかったが、果たして戻る人はどの位の割合でしょうか。帰還が遅れば遅れる程、住まなくなるし、中間貯蔵施設が出来ればなおさらの事戻る方は少ない、又無いと思う。

長期計画は、何年先を見据えての作成か？

個人的な考えとして双葉町、双葉郡にこだわらず、広域的な中でいわき市、又南相馬市に合併して再建復興した方がいい。大きな視点でとらえては如何かと思う。

知恵を出し合っ立派に作成された事には感謝いたしますが、絵に描いた餅のようで現実離れと思う。

それよりも、移住後の生活安定、重点的に行政として取り組んで欲しいです。

● 浜通りで避難している各自治体はいったん解体しひとつの自治体として統合する。

双葉町、大熊町は勿論、ほかにも元へ戻る人は極めて少ないと思います。各自治体は別々に学校を作って5人や10人の生徒のため何人かの先生も準備してます。

浜通りの各自治体はすべていったん解体しひとつの自治体として役場、学校などひとつに統合し運営をせねばなりません。

国も県も、東電も打ち出の小槌は持っていません。

いま我が国は千兆円を越す巨大な借金をかかえ破産寸前なのです。ムダ使いは許されません。

● 意見募集の返信、遅れて申し訳ありません。

内容は共感するものが多々あります。

同じように周辺の町も検討しているため共有するものもあるかと思えます。よって町間の調整も必要かと思えます。

大切なことは中間貯蔵施設設置等の遅れがあり、早期に進めるべきと思っています。

一時帰宅で双葉町に入って見る風景により、帰宅する気持ちがなえてしまうことです。3年、5年、10年の区切りで戻ろうとする気持ちが失われて行くような気がします。

● 町の復興については、双葉町単独での復興は難しいと思えます。特に地理的に考えると、隣接町村の浪江町高瀬地区、幾世橋地区、請戸地区、浪江両竹地区の復興計画も十分考慮し、進めるべきと考えます。震災前の双葉町民の買い物等は浪江町内が多かったと思えます。人が生活するための復興であれば隣接町村、とりわけ浪江町との連携、協力が必要かと思えます。

中間貯蔵の問題は確かに大熊町との連携は必要であると考えますが、将来の双葉町を考えた場合には、浪江町の復旧、復興との連携を考え進めざるを得ないと思えます。

【その他】

- 安全性等のリスク管理、土地・建物等を含めた個人の保有財産をどうするかという議論が前提でなければ、生活者不在のビジョンとなってしまいます。

6.今後の進め方に対する意見

- 社会・政治事情の変化に対応し、ビジョンを随時見直すこと、その際、住民意向調査工夫・改善し計画的、継続的に実施、住民の意向を科学的に分析し、的確に把握すること。
- 中間報告の中で、さらに強化しなければならないことは、いま、全国各地に散らばってしまった町民の目を「いかにして、復興まちづくり」に傾けられるか、この一点に集中出来るかが課題になっているのではないのでしょうか。「きずな」ということばの発想では、弱すぎます。柳田邦夫さんや佐藤優さんらが提唱している「困難なときこそ、想像力が必要なんだ」と。恐らく、今回の意見募集にしても、沢山の便りを頂けることは期待出来るのでしょうか、でも小さな声に耳を傾ける。その事の中に新たな発見・それならばこうすればどうかなという発想が隠れて居るんですね。パブリックコメントは意見集約に留まらず、先程の「それならば」こんなこともと、ヒントを頂いて新たな柱立てを試みられたら、それを想像力といえないでしょうかね。
- 先の中越地震により被災した山古志村は将来の復旧復興に苦しんでいた。そんな折、村長は村民に対して希望をもって生活してくださいとあいさつした際に村民の一人は目の前に具体的な希望を示さずに希望のある生活なんかできないと怒ったそうです。若い人は将来の希望に耐えられるが壮年以上の年代は明日明後日の希望がないと人生やっついていられないかもしれない。そこを考えた中間報告でないと絵に描いた餅になってしまうので留意が必要。結果、感動の少ない報告書となってしまふ。単に報告書作成して終わりではないはず。提案として、未来の双葉町を担う若年層に考える機会を多く提供しなければ、尻つぼみとなり理想的なまちづくりは消滅してしまう。すぐにでも学校などでのワークショップにより希望の持てるまちの理想を考えさせる必要がある。
- 帰る人と帰らない人の少数数を取り、多い方を優先
- 帰りたい人と帰らず今の土地で暮らすことを決めている人もいます。どちらが多いかを多数決し、多い方で復興を進めるべきであると考えます。双葉町に帰ったとしても若い世代が帰らないのであれば、後には町としては成立していきません。これからをもっと考えたまちづくりをしてほしいなと思います。

7.その他

- Ⅲ復興まちづくりに向けた取り組み 1.復興まちづくりの進め方(1)基本的な考え方の「双葉町外拠点」〈復興公営住宅整備〉の全体構成の絵の中のいわき市南部の拠点形成イメージの中で復興公営住宅に移転される方が、南台仮設住宅、県内仮設・借上住宅、県外借上住宅とあるが、県内仮設住宅、県内借上住宅、県外借上住宅ではないのでしょうか。なぜ南台仮設住宅の町民は希望にかかわらず全てこの復興住宅に入れるのでしょうか。(p11)
- 当該報告書は難しい文言ばかりである為、理解に苦しむ。簡単で誰にでも理解出来る表記は出来ないのか？

- 2項復興まちづくりの目標・基本方針（1）復興まちづくりの目標・Ⅶ災害を克服し安全・安心に暮らせるまちの関連する「主な委員会意見」に委員の意見ではあるが、「町内の除染が済んだとしても、中間貯蔵施設への搬入が続いているうちは、帰れる環境にはならない。」と中間貯蔵施設が町内に設置されているような表現となっているが、どうでしょうか。（p8）

- 町長様

昭和5年生まれ85才です。

石熊に戻れますか。

町内拠点から離れているようですが。

早期帰還に向けてガンバッテください。

お体に気を付けて。

- タブレットで度々町内のカメラを見ている。増設する考えはないですか。

- 概要版を読ませて頂きました。いろいろ取組をされているようですが、今までに!!します!!するつもりでございます!!が三年半で多いように思われます。若い人達も同じく年が進み成人になりますと、考えも大人でございます。

出来る場所から、進めてほしいのが、皆様の気持ちだと思います。もちろん私もそうです。出来ない所は、それなりに進んでいると思っております。大変な物（原発）も、やはり他の町ではなく、双葉町の事は、双葉町（双葉郡内）で済ませたいと思います。今後、若い人達にふりかからないように。他の町村で一言、云われると、その思いは残ってしまいます!!若い人達にとっては言いにくいと思いますので、今の私達で双葉町を良くしていきたいものです。

この事は、国、県、町でお願いしたいものです。私も出来ることなら長生きし、双葉町をこの目で見ていたいです。良くなることを願って。

- 双葉町をどの様に復興・復旧させたいのかは当該報告書を読めば何となく解るが、何を根拠に策定したのか？この内容ではあきらかに政府が裏で絡んでいるのが良く分かる。

- 復興委員にお伺いします。復興委員の方々で、双葉に戻って再び生活する意思がありますか？その上での復興計画ですか。答えて文章で送って頂きたくお願いします。

- 双葉町は、戻るのはあきらめました。美しいみどり、海、風景も見れないでしょうか。綺麗な空です。あと祭り、イベント楽しかったです。それが体育祭です。

バラがとっても綺麗です。

自然が好きでした。

●お世話になっております。

この度、双葉町の復興まちづくりの進め方等を読みました。又、町政懇談会にも出席させて頂き、これから先の双葉町のありかたについての説明も聞きました。

月日が経てば経つ程、復興の難しさが増す様に思われます。

私は震災後、埼玉県加須市に2年8ヶ月世話に成り昨年12月茨城県日立市に転居し、形の上では何の不自由もなく暮らして居りますが、やはり思うのは双葉町の事です。双葉町が好きです。出来る事なら生きているうちに双葉に帰りたい。

しかし、原発の廃炉まで30年～40年と言われて居ります。更に中間貯蔵施設が出来た場合、双葉町に帰る事は難しく成る様に思われます。政府では30年後、県外で最終処分するとの事ですが、中間貯蔵施設＝最終処分場に成ると思われます。しかし、町長をはじめ、復興推進委員、その他多くの方々が町の復興のため取り組んで居る姿に対し心より感謝するばかりです。

おわりに、双葉町には帰りたくても帰れないこれが結論です。

今後ともよろしくお願い致します。

●出来る事から

かえりてえ～だ

●復興まちづくり長期ビジョンを読ませていただきました。

いつ帰郷できるか判りませんので娘の近所にマンションを購入しました。

年なので家族の近くで過ごしたいと思いますのでいずれ、老人施設でも出来ればと考えておりますが、現在の心境です。

●私は双葉町がなくなっても良いと思っております。(中間貯蔵施設は)双葉町から出た物は双葉町に。それでないと、なん回話し合いをしても決まらないと思えます。

●中間貯蔵の場所なのか、それが知りたい！もどすか、かえさないのか、はっきりと知りたい。

●町長伊澤史朗さん始め職員の皆さん、復興町づくりにかかわっている皆さん本当に御苦労様です。町長皆が「ふる里」をなくしたのだから、それぞれ意見はあると思いますが、国、県、町、だれかが悪いのではないと思いたいです！！昔から自分の家を出したゴミは自分の所で片づけると思う！！

私は東電が出来るときから双葉町に育ち、何らかのかたちで77年間考える事が多くあります。でも私達が若い時、双葉の人は出かせぎに行き農業で生活していたが、先祖がよかれと思って東電を誘致して、出かせぎにも行かず、生活出来たのだと思えます。先祖の事を考えれば土地の事ばかり言わないで早く仮置き場を作り、町のため、県、国のため、前に進んでいただきたく思っている一人の町民です。

頑張ってください。つまらない意見で申し訳ありません。

乱筆乱文にてごめんください！！

●第2原発の早期廃炉実施

●過去のアメリカやチェルノブイリ等の復興例の調査及び反映の検討

●原子力発電所の再稼働

原子力発電所の稼働が無く、石油と石炭を使用する火力発電所のフル稼働により、いま地球はすごい速度で温暖化が進んでいます。そのうち私共人類が地球に住めなくなりそうです。原子力発電所は地球温暖化とは無関係です。考えられる問題点はキチッと対応し、この再稼働により、地球温暖化にストップをかけましょう。

Ⅱ 「ふたばしゃべり場」意見内容

＜ふたばしゃべり場＞とは？

ふたばしゃべり場とは、「若者同士のつながりを作ろう」、「若者の声を町に届けよう」という目的で双葉町復興支援員が主催し、20～30代の双葉郡出身の大学生や社会人が参加し意見交換したもの。

＜開催概要＞

■福島会場

◇日時 : 平成26年11月29日

◇参加者数 : 5名

■東京会場

◇日時 : 平成26年12月14日

◇参加者数 : 4名

1.長期ビジョンの評価に関するもの

【前向きな評価に関するもの】

- 大熊町が先にビジョンを出していたので、双葉町もビジョンが出て安心した。
- 帰って何かしたいという人もいると思う。早くから再生ゾーンに関わってもらえれば町も残っていくのではないかと思う。
- 双葉町を残していきたいという気持ちはある。世代を超えて町を守ることが必要だと感じている。

2.期間の明示を求める意見

- 復興の期間がわからず、ピンとこない。

3.町内復興拠点への意見

【町内復興拠点の配置や整備の考え方】

- なぜ今回のようなゾーニングをしたのか。元の双葉町に戻せば良いのではないかと思う。戻れたとしても、あるべきものがないと戻る意味がないと思う。
- 新しい施設をつくるよりも、元の町のままでいい。変わることは求められていないのではないかと。
- 普通の生活（当たり前の生活）ができるような場所を提供することが大切。
- 双葉町の復興が終わった後、遊びに行く場所ではなく、落ち着ける場所（街）になって欲しい。「帰る自分の町」であってほしい。
- 双葉町は、いつか帰れる場所として残っていれば良い。変わることを求めている。

【産業・雇用の創出】

- 原発に替わる雇用の場は必要である。

【宿泊施設】

- 家がなくても双葉町に滞在できる場所があるといい。

【記憶の継承】

- 震災前のこと、震災後のことを伝えられる場所があると良い。
- 神社やダルマ市など、元ある雰囲気を残しながら、新しい町の形を作ってほしい。
- 景観が変わった双葉町をふるさとと感じられるかわからない。
- 双葉駅や海は、変わって欲しくない。

【生活関連サービスの確保】

- 双葉町に戻りたい町民は、高齢者が多いと思う。高齢者への対応に向けた動き（病院など）が必要であると思う。

【交流施設の確保】

- 町民同士が情報交換をできるような場所があると良い。

【復興のシンボルづくり】

- 国道6号沿いに双葉町のことかわかるような看板を立て、通過するだけでもここがどんどこかわかるようにする。

【周辺市町村との連携】

- 双葉町としての独自色は出して欲しいが、元々の相双や双葉郡としての繋がりを大切にしたい。
- 双葉町だけでなく、周りを引き寄せてみんなでつながっていききたい。
- 震災前は、周辺市町村とのバランスが保たれていた（買い物は、いわき、浪江、南相馬や仙台へ行っていたなど）。町の中をごちゃごちゃしなくても良いのではないかと思う。

4.その他

- 全体としては、良い方向に進めて欲しい。しかし、ぼやっとしたイメージ（子供たち、絆などの言葉）で進めている感じがする。もっと具体的な言葉で示して欲しい。
- 復旧と復興は違い、またその考え方は、人それぞれ違う。

Ⅲ 「町政懇談会」意見内容

※町政懇談会の主なご意見のうち、長期ビジョンそのものへのご意見のほか、関連する町の事業へのご意見・ご質問を含めて幅広く整理しました。

1.長期ビジョンの評価に関するもの

【前向きな評価に関するもの】

- 町への帰還のため、将来像は示していくべきである。
- 双葉町は残さなくてはならない。

【実現を疑問視する意見】

- 長期ビジョンを作ったとして、果たして、どれくらいの町民が戻るのか。

2.帰還・復興の安全に関わる意見

【中間貯蔵施設・廃炉】

- 安全が確保されるのかが不安である。廃炉や除染は、実行できるのか。

3.町外における生活再建の充実を求める意見

【町民一人一人の生活再建に向けた取組の推進】

- 避難先に定住した方への支援をどのように考えるのか。

【税制の優遇、賠償の充実】

- 賠償金に対する贈与税・相続税・所得税などの減免を要望してほしい。
- 賠償の基準がはっきりしない。
- 免除措置（税、医療費、高速道路）はいつまで続くのか。
- 町外へ住民票を移した場合、高速道路の無料化等については失効するのか。
- 借り上げ住宅制度はいつまで続くのか。

【県外避難者支援】

- 福島県外での復興公営住宅の整備はできないのか。

【復興公営住宅】

- 復興公営住宅はいつ入居できるのか。

【双葉町とのつながりの維持】

- 盆踊り助成金は、会員数に応じた助成としてほしい。
- 町民が離散しているため、交流するにも経費が掛かる。支援策はないのか。
- 全国に避難している子どもたちの状況を把握しているか。

【人材育成】

- 町立学校の現状と、町の子どもたちについての考えは。
- 現時点で帰町はできないが、夢を持つことが大切。

- 子どもたちには町を思う気持ちがあると願いたい。

4.期間の明示を求める意見

- 双葉町に戻れる時期を示すべきである。
- 長期ビジョンの各段階のスケジュールを示すべきである。

5.町内復興拠点への意見

【インフラ等の整備】

- 道路の除染・修繕、道路上の倒壊家屋の撤去を行ってほしい。
- 下水道の被害はどれくらいか。
- イノシシの被害があり、道路、空き地、田畑等の草刈りの対策をしてほしい。
- 帰還困難区域内での片付けごみの回収を行ってほしい。

【産業・雇用の創出】

- 再生可能エネルギーを町に積極的に導入すべきである。

【暮らしの安全対策】

- 国道6号線が9月に自由通行になったが、防犯対策は怎么样了のか。
- 町の防火対策は怎么样了のか。
- 町内に残っているガソリンや灯油類の処分の見通しを聞きたい。

【除染・放射線量モニタリング】

- 今後の除染の見通しは怎么样了のか。

【双葉町とのつながりの維持】

- 一時帰宅した際のトイレを整備してほしい。
- 一時帰宅の事務の簡素化や双葉町民の一時立入りの自由化を希望。

6.今後の進め方に対する意見

- 取組内容をより具体化させてほしい。

<参考資料>

平成26年度 双葉町町政懇談会 実施概要

月 日	時 間	場 所	出席者数
11月20日(木)	10:00~12:00	いわき市(勿来市民会館)	50名
	15:30~17:30	つくば市(つくば市役所)	17名
11月23日(日)	10:00~12:00	白河市(白河市立図書館)	46名
	15:00~17:00	会津若松市(会津大学)	8名
11月24日(月)	10:00~12:00	郡山市(福島県農業総合センター)	54名
	15:00~17:00	福島市(福島県青少年会館)	38名
11月25日(火)	10:00~12:00	仙台市(仙台市民会館)	17名
11月29日(土)	15:00~17:00	加須市 (騎西コミュニティセンター)	51名
11月30日(日)	10:00~12:00	東京都(東京グリーンパレス)	23名
12月1日(月)	10:00~12:00	柏崎市 (柏崎市文化会館アルフォーレ)	12名
12月5日(金)	13:00~15:00	南相馬市(テクノアカデミー浜)	17名
	18:30~20:30	いわき市(いわき市中央公民館)	14名
計		12カ所 (福島県内7カ所、県外5カ所)	347名